

1. 知的財産活動の紹介

豊田合成グループは、「法律と契約を遵守することを前提に、豊田合成グループが協力しながら知的財産活動を通して、お客様へ「安心」「安全」「快適」をお届けする」をポリシーに、①長期視点に基づき、知的財産権の取得とその有効活用、管理を行う、②他社知的財産権の侵害を防止し、他社知的財産権を尊重する、③継続的にエンジニアの知財スキルを向上しイノベーションを活性化する、を行動指針としています。

2020年度には、日本で213件、日本以外で149件の特許が登録となりました。

また、IPランドスケープ[※]による知財情報・非知財情報の集約・分析を通じた事業の戦略へ向けた取り組みを開始しました。今後は新事業企画／新製品企画などの、経営戦略の立案へ寄与する活動に取り組みます。

同時に、継続的な取り組みとして、各事業や開発プロジェクトに即した出願活動・特許保証活動、社員教育を通じた人材の育成や知財意識の向上、などに取り組んでいます。

1-1. 2020年度までの登録件数

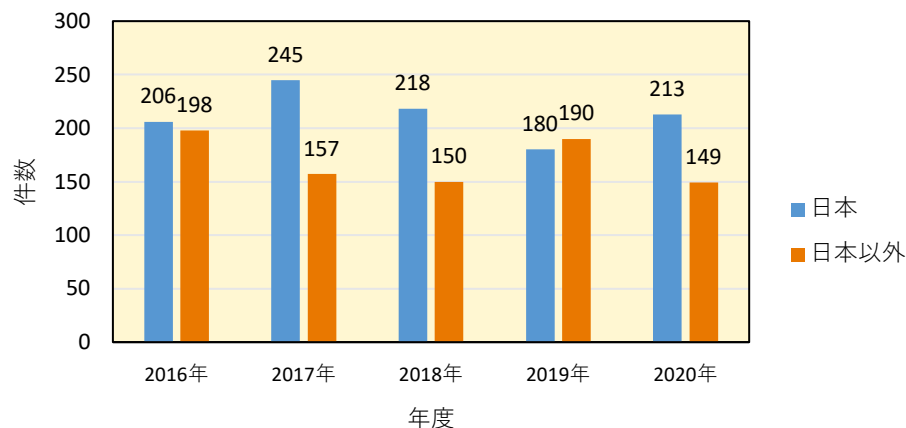


図-1 特許登録件数

1-2. 2020年度末までの各年度末時点での保有権利数

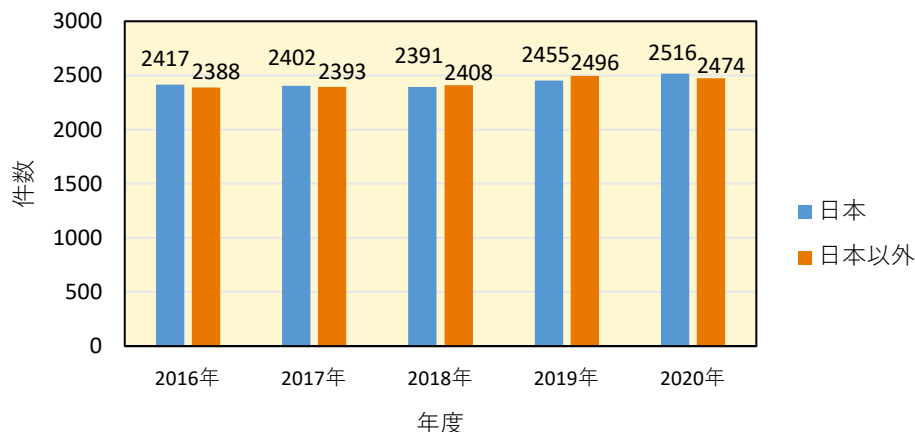


図-2 保有特許件数（年度末時点）

※ IP ランドスケープとは、経営戦略又は事業戦略の立案に際し、(1) 経営・事業情報に知財情報を取り込んだ分析を実施し、(2) その結果（現状の俯瞰・将来展望等）を経営者・事業責任者と共有すること。（IP ランドスケープ推進協議会の定義による）

[生分解性樹脂に関するもの] ポリ乳酸系樹脂成型品

特 許 No. 5233105

発明者 中川博之, 伊藤克志

[発明の属する技術分野]

本発明は、生分解性樹脂であるポリ乳酸を含有するポリ乳酸系樹脂成型品に関する。

[発明の概要]

ポリ乳酸系樹脂成型品は、ポリ乳酸系樹脂と結晶化度 20 重量%以下のポリプロピレンと変性エチレン- α -オレフィン共重合体又は変性ポリオレフィンとを含むポリ乳酸系樹脂組成物で成形された成型品。ポリ乳酸系樹脂の結晶化を促進する処理が施されている。

ポリ乳酸系樹脂組成物はポリ乳酸系樹脂 90～10 重量部に対し結晶化度 20 重量%以下のポリプロピレンが 10～90 重量部配合されていて、ポリ乳酸系樹脂及び結晶化度 20 重量%以下のポリプロピレンの合計 100 重量部に対し変性エチレン- α -オレフィン共重合体又は変性ポリオレフィンが 1～20 重量部配合されている。

[発明の効果]

耐熱性及び柔軟性がともに高いポリ乳酸系樹脂成型品を提供することができる。

[低温架橋処理に関するもの（使用エネルギーの低減）] ポリマーアロイ及びゴム製品並びにそれらの製造方法

特 許 No. 5527253

発明者 岩瀬直生, 今井英幸, 瀬尾明繁,
近藤秀明, 上遠野雄介

[発明の属する技術分野]

本発明は、非共役二重結合を有する無極性ゴムを変性させた変性ゴムを含むポリマーアロイ及びそのポリマーアロイからなるゴム製品並びにそれらの製造方法に関する。

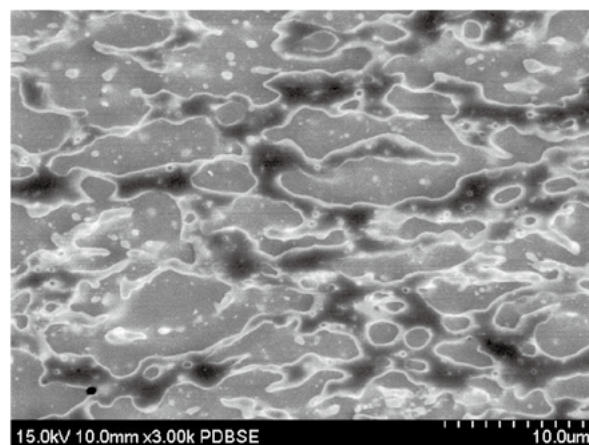
[発明の概要]

芳香環にニトリルオキシド基が結合した芳香族ニトリルオキシドのニトリルオキシド基のオルト位に置換基を有する芳香族ニトリルオキシド誘導体のニトリルオキシドで非共役二重結合を有する無極性ゴムが変性された変性ゴムと極性ゴムとからなるポリマーアロイ。

および、この無極性ゴムを変性ゴムに変性するステップは、0～180℃での反応であり、この変性ステップと変性ゴムと極性ゴムとを混練する混練ステップとを備えたポリマーアロイの製造方法。

[発明の効果]

耐油性を備え耐オゾン性（耐候性）が向上し、高い機械的強度（特に引張強度）を持つ、無極性ゴムと極性ゴムからなるポリマーアロイ及びゴム製品を製造・提供ができる。製造工程を従来よりも低温で実施することができる。



2-2. 商標

右図は、端材を再利用した製品に使用している商標（Re-S リーズ）です。（製品に関する詳細は、下記 URL をご覧ください。）

<https://www.toyoda-gosei.co.jp/csr/goods/>

登録商標 6399113 号：Re-S（文字商標）

登録商標 6399114 号：右図に示されるマーク（図形商標）

